

「いけばな」の配色に関する研究

Studies on color scheme of the Ikebana

柴野 晶子

Shibano Shoko

近藤色彩設計研究所

近藤 恒夫

Kondo Tsuneo

大阪芸術大学 芸術学部

はじめに：「いけばな」の自由花または色彩盛花のなかで、一般的に多く用いられている配色構成について研究する。

それには、各流派に共通した配色の型をみつけるために、「いけばな」の各流派の書を参考にし、また、例として、実際に生けてみて観察した。

実用面では、インテリア・デザインのルームポイントまたは、ルーム・アクセサリとして、「いけばな」が用いられ、室内の「ふんい気」を変化させている。

「いけばな」の構成要素であるところの線、面、集合体、花型、色彩、材質などのうち、色彩の組み合わせが最も重要であり、今回は、アクセント（配色のポイント）および、花器を加えての配色を研究する。

1. アクセント

目をひきつける色は、注目性、可視度などに関わるが、「いけばな」の場合は、前述の構成要素によって変化するが、実例調査の結果、赤（R）が最も多く、約50%を占めている。次いで、黄、橙、紫、白、赤紫と一ツき、青（B、PB）、緑（GY、G、BG）は少い。

考察：（表1参照）

- (1) 全般的に注目性および可視度の順番になっている。（背景はN7として観察する）
- (2) 花材の多い順も関係している。（入手のし易いもの、季節を通して作られているものなど、花の種類が関係している）。
- (3) 緑の葉は、使い方（花型、面、集合体、容積など）によつて、アクセントになる。
- (4) 青系は、ほとんど花器の色である。（

流派によつては多く用いられる）。G系も同じ。

表1. アクセントの使用頻度表（%）

色 相	Hue	頻度%	花器%
白	N	7.1	
赤	R	50.6	
橙	YR	8.8	(内 5)
黄	Y	11.0	(1)
黄緑	GY	1.5	
緑	G	2.5	(2.5)
青緑	BG	0.1	(0.1)
青	B	1.4	(1)
青紫	PB	2.2	(0.3)
紫	P	8.2	
赤紫	RP	6.6	
		100.0	(9.9)

試料数： 250

- (5) アクセントは図1（花型）の③の位置が最も多い。（表2参照）

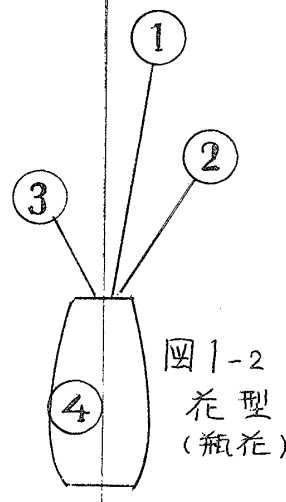
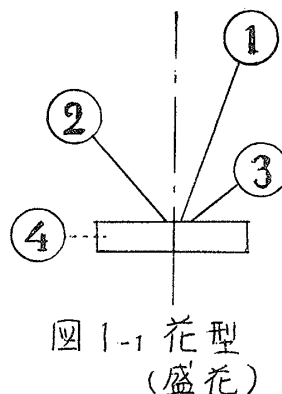


表 2. アクセント分布表 (%)

類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
花型	①	①	①	①						
位置		②	②	②	②	②	②			
			③	③		③	③	③	③	
				④			④		④	④
%	2.5	4	6	14	9	7	3	48	2.5	4

考察:

各流派によつて分布に特徴がある。例えば、③の位置を特に重要視したものや、花器にアクセントを置くことが特徴であるもの、または、全般的に分散する型を多く用いたりすることである。表2は それらを平均した分布図であるが、各流派の共通したアクセント・カラーの処理、演出法が考察できる。

2. 配色構成

自由花の配色は、ほとんど3色以上の組み合わせである。

次に、特に美しい組み合わせを、資料、試料実験から選び、色相の組み合わせだけで、色相環に図示してみた。

- --- 分布表2. の①, ② (大きさは容積)
 □ --- 花器 △ --- アクセント
 △ --- アクセント ③ が 多い。

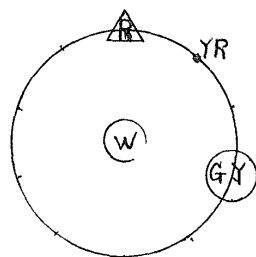


図 2-1. 準対比

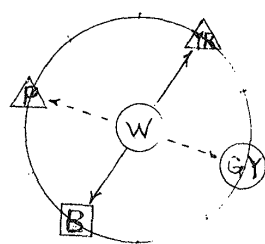


図 2-2. 対比

(1) 準対比型

GY と R の間に W をもってくる。

YR があると、さらに良好である。

(2) 対比型

YR : B または、GY : P

いずれも白 W が調和作用をしている。

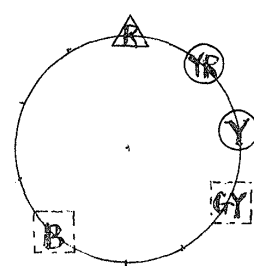


図 2-3. 類似

(3) 類似型

YR, Y : R の組み合わせで、GY または B の付加が必要である。

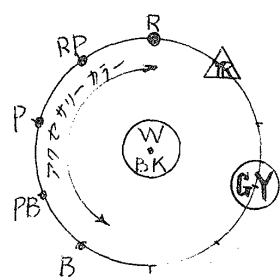


図 2-4. 中位

(4) 中位型

YR : GY の組み合わせで、他の色相が要求される。

例として、アクセサリ・カラーとして R, RP, P, PB, B などがあり、全色相を用い、白 W または黒 BK を用いる場合がある。

まとめ:

色相だけをとりあげて配色構成を考察すると次のようになる。

1. 緑 GY (葉、茎) とアクセントの赤 R (花) の組み合わせが最も多い。この準対比調和の中間に YR または Y、あるいは白 W、黒 BK を副調色として用いると変化のある美が構成できる。
2. 補色対としては、緑 GY (葉、茎) とアクセントとしての紫 P または赤紫 RP の組み合わせには、副調色として、緑 YR (茶、バーベキューを含む) を配色するのもよい。Y (花) : B (花器) の補色対には、GY (葉、茎、花器の柄) を配色することもよい。
3. 自由花や色彩盛花と称する「いけばな」の美しさは、コントラストの美であることが考察され、すなわち、対比調和(補色、または、準補色調和)と、それらの色の調和性を良くするために、副調色として中間に位置する色や、無彩色(白、グレー、黒)を用いる配色構成は、絵画の配色と同じ構成であることが考察される。